

# 金石・大野コース

## 日本海の恩恵「潮騒と夕風の協奏曲」

日本海に望む港町の金石・大野は、古くからの町家が残り、落ち着いた風情を漂わせ、潮と醬の香りが織りなす情景は、懐かしく、かつ、繊細で優美さを物語っています。波音に耳を澄ませば、自然の雄大さが感じられます。

大野湊神社 → 宮腰緑地 → 金石銭五公園 →

金石・大野やすらぎの林 → 日吉神社 → 大野灯台 →

大野こまちなみ公園 → 名聲寺 → 傳泉寺 → 金石地藏堂



## ●大野湊神社の社叢<sup>しゃそう</sup>

「寺中の森」とも呼ばれ、約1万5千㎡の境内は、樹齢数百年といわれるケヤキ、エノキ、タブノキ、ヤブツバキなど原植生が保たれていて、さらにはスダジイ、ウラジログシ、クロマツ、シロダモなどの樹林も含め約1万2千本あまりの樹木で覆い尽くされています。この森は、小鳥たちにとっては、社叢から社叢へ飛びまわる「飛び石ピオトープ」として機能していると考えられます。森閑な濃く深い緑に抱かれていると心癒<sup>いや</sup>されます。社叢は、市の天然記念物に指定されています。

神社に隣接して大野湊緑地公園があり、親水広場で水鳥が羽を休ませる光景もみられます。

## ●宮腰緑地

県道金沢港線沿いを進み、金石のまちなかに向かいます。

宮腰緑地は、枯山水のある芝庭で、ウメ、オオシマザクラ、サルスベリなどがみられます。このかわいいは、昭和初期の佇まいが色濃く残っていて、その風情にあった和風の雰囲気演出しています。

## ●金石銭五公園

市営住宅を過ぎると、路傍に「銭屋五兵衛翁銅像路」と刻まれた石柱が建っています。それに従い進むと、金石銭五公園に辿り着きます。松林に囲まれた公園の中央には、藩政末期の豪商、一代で財を築きあげ「海の百万石」と呼ばれた銭屋五兵衛の銅像が建っています。

## ●金石・大野やすらぎの林

金石町小学校裏から続くやすらぎの林は、海岸林の特性を活かした海浜の自然を体感できる場所で、浅黄色に染まる空と海、水平線に沈む落陽などの光景は、感動的で心打たれます。展望広場から市街地を望めば、麓<sup>いらか</sup>が白い波のように輝き、金石から遠くは白山市方向まで見渡せます。

林の中を金沢港方面に進むと、日吉神社があらわれます。

## ●日吉神社から大野弁吉屋敷跡へ

日吉神社には、十二代藩主前田斉広<sup>なりなが</sup>が参詣したのを記念し植えられたといわれているイチヨウの木があります。樹高32m、幹周3.45mと大きなもので、市



内最大級のイチョウです。秋には銀杏拾いをする子どもたちの姿もみられます。

神社裏のニセアカシア林を進むと、大野弁吉碑が屋敷跡に静かに建っています。

弁吉は、天性手先が器用な人で、「加賀の平賀源内」とも呼ばれ、大野でからくり仕掛けを用いて動き出す人形やエレキテル、彫刻など数多くの発明や作品を世に残しました。大野川の対岸「金沢港大野からくり記念館」では、弁吉の世界を中心に日本のからくり文化をわかりやすく紹介しています。



## ●大野灯台

やすらぎの林を抜け、大野川沿いの通りを日本海に向かって進みます。大野灯台は、金沢港へ入港する船の道しるべとして、また、港町大野を象徴する建物として親しまれています。四角い灯台は、全国的にも珍しく、日本の灯台50選にも選ばれています。灯台公開の機会に恵まれたなら、117段の階段を上り、頂部から日本海を眺めてみるのもよいでしょう。丸い水平線から波が水柱を立て、白い砂浜に幾何学的模様を描き、潮風が鳴り海面が光輝き、壮大な海の姿には、自然の力強さを感じます。



大野灯台付近

## ●大野町かいわい

大野川沿いの通りを金沢港方面に進みます。大野こまちなみ公園は、市民提案型の公園で、クロマツやウバメガシなどがみられます。このあたりは、歴史的な特色を残す建造物が多くみられることから、保存・育成を図るべき「こまちなみ保存区域」に指定されており、公園も調和がとれたしつらえとなっています。また、隣にある名聲寺の枝ぶりが見事なクロマツも、このかいわいに風格をあたえています。傳泉寺は、大野弁吉墳があることで知られています。

## ●金石の寺院群

金石町小学校前から金石地藏堂のある通りまでしばらく進みます。金石かいわいも寺院が多いことに気がつきます。室生犀星が若かりし頃、下宿していた海月寺や飴買い幽霊の伝説が残る道入寺、銭屋五兵衛の墓所がある本龍寺など、金石の寺院めぐりも興味深いものがあります。